

八千代オイコス 川の学校 報告書 かわら版 第30号



平成 27 年 10 月 10 日発行
NPO 法人八千代オイコス
<http://www.yachiyo-oikos.jp/>

【川の学校 1 日目の活動】

日 時：8 月 8 日 9 時～15 時
場 所：花輪川
参加者：40 人、保護者：24 人（他未就学児 3 人）
講師：1 人、オイコススタッフ：14 人 合計 82 人

【川の学校 2 日目の活動】

日 時：8 月 9 日 9 時～16 時
場 所：花輪川&農業交流センター
参加者：36 人、保護者：23 人（他未就学児 3 人）講師：1 人、
オイコススタッフ 14 人 合計 77 人



テキスト 表紙



みんな元気に集合しました

川の学校 開催にあたり

2015 年第 9 回川の学校を 8 月 8 日・9 日に予定して、市内全小学校にチラシのご案内をしたところ、例年になく盛り上がりで予定人数の倍以上の子ども達の申込みを頂きました。

今年の夏の暑さも例年以上の猛威となり熱中症被害者が、毎日病院に担ぎ込まれるニュースで大変でした。

そんな最中に開催する「川の学校」には長年の運営経験を積んだオイコススタッフも子ども達の突然の病気、ケガが一番に気遣い腐心するところですが、熱中症対策には特に気を配り参加者には十分な水の用意をと声掛け、更に今年はオイコスでも塩あめ・経口補水液等の用意も準備万端備えました。

又受入数の増えた分、子どもチームの活動ステージを 3 か所に増やし対応しました。2 日間花輪川を通して水・生き物について学び、自然の大切さを学習し合って終了した子ども達にはどんな思いが届いた事でしょう。

又一緒に参加して頂いたお父さん・お母さんにとっての親子の連帯感にも夏休みの濃い一頁として残して頂いたものと思います。

今年も「川の学校」が無事終了出来ました事、皆様のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

（ 代表 川瀬 ）

川の学校1日目の活動

《1日の活動テーマ》

- ・花輪川を知る
- ・川調べ・水調べ

9:00 集合 八千代緑が丘駅モニュメント広場

9:20~10:20 花輪川を歩いてみよう!



川底から湧水が噴出しているのを見えました

八千代市内の川



10:30~オリエンテーション

11:10~川を見てみよう



13:00 しかけをしてみよう



《ふりかえり》

☆わくわくしたことは?

- ・川に入るとき
- ・しかけを仕掛けるとき
- ・水質
- ・川を探検した時
- ・初めて川に入った時

☆さんねんだったことは?

- ・靴の中に川のドロが入り気持ち悪い
- ・無い

☆発見したことは?

- ・川には、深いところと浅いところがあった
- ・流れも速いところ、緩やかなところがあった
- ・川の水が冷たかった
- ・川底には土や泥があった
- ・川は汚れているように見えたけど、コップですくうとそこまで汚れていなかった
- ・トンボがたくさんいた
- ・ほとんどの生き物はかくれている

川の学校2日目の活動

《2日の活動テーマ》

網の使い方

9:30 しかけを調べた後、生き物をさがそう

- ・生き物調べ
- ・生き物がすむための作戦会議



班からじまんの1匹報告



13:40 班ごと生き物調査報告



14:20 皆で考えよう 生き物がたくさんすめる花輪川大作戦会議と発表



福士先生の講評

15:40 終了書 渡し



《ふりかえり》

★心に残ったことは？

- ・川の中に生き物がいっぱいいて、捕まえたこと
- ・メダカが取れた
- ・生き物にふれ、自然の大切さを学んだ
- ・発表できたこと 他

★気づいたことは？

- ・思っていたより生き物が多かった
- ・上流が川の流れが速い
- ・泳いでいる魚が少なくなった
- ・花輪川は新川につながっている
- ・私たちが魚を増やす力があること 他



◎花輪川水質調査◎

調べた場所	1班 (土橋)	2班 (土橋)	3班 (カリン橋)	4班 (カリン橋)	5班 (花輪橋)	6班 (花輪橋)	蛍チーム (土橋)
時間	10:50~11:20	10:55~11:25	10:55~11:30	10:55~11:30	10:55~11:20	10:55~11:35	10:50~11:20
天気	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
気温	29度	29度	29度	29度	29度	29度	29度
水温	24.5度	24.5度	24.5度	24.5度	24.5度	24.5度	24.5度
流れの速さ	普通	普通	おそい	おそい	おそい	はやい	普通
川ぞこ	土	土・砂	土	土	土・枯れた草	土・枯れたアシ	土、砂、小石
水の色	無い	無い	薄い茶色	薄い茶色	茶色、黄色	薄茶色	薄い茶色
にごり	透明	透明	少し濁っている	少し濁っている	少し濁っている	濁っている	少し濁っている
におい	無い	無い	少し臭い	少し臭い	少し臭い	少し魚のにおい	ドロと草の香り
COD	5	5	6	6	4	7	8以上
ゴミ	缶	無い	缶 ビニール袋	缶	ビニール袋	ビニール、缶	無い

★生き物調査★

花輪川	下流		中流		上流		下流
班(班名)	1班 (ザリガニ)	2班 (フナ)	3班 (タガメ)	4班 (ザリガニ)	5班 (花輪)	6班 (ドジョウ)	蛍チーム (父母)
しかけた場所	2か所	2か所	2か所	2か所	2か所	2か所	4か所
しかけで捕まった	ザリガニ: 1	無し	ヨシノボリ: 2 ザリガニ: 2	無し	ヨシノボリ: 4、カ ワニナ: 2	ザリガニ: 11、ヨシノ ボリ: 2	ザリガニ: 5、ヨシノボ リ: 1、スジエビ: 1
網で捕まえたもの	ヨシノボリ: 9、ドジョ ウ: 13、ザリガニ: 15、 スジエビ: 12、メダカ: 1、 マツモムシ: 1、アメン ボ: 1、アマガエル: 1	ヨシノボリ: 16、 ドジョウ: 6、ザリ ガニ: 30、スジエ ビ: 16、アメンボ: 4	ヨシノボリ: 67、ド ジョウ: 3、ザリガ ニ: 49、スジエビ: 5、ドジョウ: 3	ヨシノボリ: 40、ドジョ ウ: 15、ザリガニ: 65、 スジエビ: 3、ゲンゴロ ウ: 1、ヘビ: 1	ヨシノボリ: 50、ド ジョウ: 10、ザリガ ニ: 19、スジエビ: 10、ミズスマシ: 1、 コオイムシ: 1、	ヨシノボリ: 3、ドジョ ウ: 33、ザリガニ: 27、 スジエビ: 14、ゲンゴ ロウ: 2、メダカ: 1、 ミズスマシ: 1	トウヨシノボリ: 6、 ドジョウ: 1、ザリガ ニ: 3、スジエビ: 22、 メダカ: 2



1班

- ・ゴミを捨てない
- ・水草をふやす
- ・上流に地下水をふやす
- ・外来種を入れない
- ・酸素をふやすため滝をつくる



2班

- ・川をきれいにする(水を汚さない)
- ・ゴミをなくす(ゴミを捨てない)
- ・生き物を捕まえない(元の場所に返す)
- ・かってにワナを、しかけない
- ・花輪川にいない生き物を、持ちこまない
- ・かくれがをふやす



3班

- ・ボイ捨てをしない、ゴミを見つけたら拾う
- ・洗剤を流さない
- ・生き物を大事にする
- ・キャッチ&リリース
- ・工場から生き物に害のあるものを流さない



4班

- ・ゴミを減らす
- ・余分な草を切る
- ・川の汚れをなくす
- ・外来種を持ちこまない
- ・マナーを守る
- ・魚のかくれがをふやす
- ・釣りのエサを、川に捨てない



5班

- ・ゴミを捨てない
- ・不法投棄禁止の看板を立てる
- ・定期的にゴミを回収する
- ・魚の「すみか」をつくる
- ・卵を産みやすいような環境をつくる(水草を植えるなど)



6班

- ・川の周りの自然を壊さない
- ・川の幅を広げる
- ・水草を抜かない
- ・魚のすみかを壊さない
- ・ゴミを捨てない
- ・外来種を入れない



お父さん・お母さん チーム1

- ・ゴミ拾い
- ・雑草刈
- ・川にすむ生き物を大切に
- ・生活用水を川に流さない工夫をする
- ・天然ビオトープの宣伝



お父さん・お母さん チーム2

- ・ホテルの住める川にして、次世代に残していこう!
- ・洗剤は自然分解できるものを使う
- ・環境保全に興味を持ち、周囲に伝えていく
- ・オイコスの活動に積極的に参加する



川の学校 感想

1班 5年 黒田 歩夢

花輪川にいる生き物が、くわしくなってよかった。でも、この感想文がいやです。上流にいるチームの方がたくさん取って超くやしくなった、ずるい。

下流に生き物が増えてほしい。上流から取ってきたほうがいい。いがいとメダカがいないんだなと思った。メダカがすくなっ。

アメリカザリガニ、チーム全体で百体以上もいるのでびっくりした。いすぎてうざくねっ。

こんどしかけをしようと思った。でも、かかるわけない。

いがいにカワセミが集まるとは知らなかった。カワセミがくるほど、水きれいじゃなかった。

カエル、マツモムシなどがつかまえられてよかった。オタマジャクシいなかったし……。ぜったいにプランクトンなど増やした方がいいと思う。それを食べる生物が集まってくると思うから。

川の学校に参加して思ったこと

3班 6年 加藤裕太郎

川の学校は、8月8日と9日に行われました。

参加する前の夜、ぼくは、ワクワクしてなかなか眠れませんでした。

初日の天気は、晴れてとても暑かったです。

会場の花輪川までは、徒歩で15分くらいだったとおもいます。

川の学校という事で、水質調査についての話を聞き、すごい小道具を使って、水質調査をしました。花輪川のCOD(水の汚れ)の値は“0”でした。なんと、一番良い(きれい)値なのでした。

そのあと、翌日、川の魚をつかまえるための、仕掛けをつくりました。

最後に川で遊びました。川の水がとても冷たかったので、気持ちいいと思いました。そして、一日目は終わりました。

次の日は、前日セットした仕掛けをかくにんしました。ザリガニが2ひき、トウヨシノボリが2ひきいました。

次に、今度は、あみで川の魚たちをつかまえました。

ザリガニを49ひき、トウヨシノボリを67ひき、スジエビを5ひき、ドジョウを3ひきつかまえて、あまりの多さにびっくりしました。

それから農業交流センターに行き、班ごとに、生き物の報告をしました。すると「おおーっ。」と、おどろきの声があがりました。

ぼくは、この川の学校に参加して、感じたことは、「川は、きれいでないと、生き物がすめない。」ということでした。

ぼくは、この川にもっと、たくさんの生き物がいてほしいと思います。

感想文

2班 5年 楠本歩生

ぼくが一番楽しみだった事は、しかけで魚をとる事でした。実際は、しかけでは何もとれませんでした。川は冷たくて気持ちよくて、入るだけで楽しくなりました。

しかけは、もう作ってあったので簡単でしたが、支えの棒を底にさすのが大変でした。そして、次の日は何が入っているだろうとワクワクしました。次の日、何も入ってなかった時は、すごく残念でした。でも、その後の網を使って捕まえる方法では、みんなで追いましこみ漁をして、ザリガニ、ドジョウ、ヨシノボリ、スジエビがたくさんとれ、すごく楽しかったです。最初は、生き物が見えなかったのに、ザリガニがバケツいっぱいとれたのは、驚きました。すごく小さいザリガニもいて、初めてみたし、とてもかわいかったです。

最後にみんなで、川をどうしたらもっとよくできるかを考えました。ぼくがすぐ出来そうな事は、生き物をつかまえない事やゴミをすてない事なので、気をつけたいと思いました。また、川で遊びたいです。



川の学校で学んだこと

4班 3年 石田健人

ぼくは、川の学校で4班のリーダーになりました。一日目は川の水を調べたり、川の流れの速さやにおいを調べました。

一日目の午後は、ペットボトルとネットで生き物をつかまえる「しかけ」を作りました。4班のなかまと考えた2箇所「しかけ」をしかけました。

二日目は、「しかけ」の中を見ましたが、残念なことに4班の2つの「しかけ」には生き物は1匹もいませんでした。しかし、その後、アミでザリガニ65匹やヨシノボリ40匹、どじょう15匹、へび1匹などをつかまえました。

農業交流センターでは、どうすれば花輪川に魚がたくさん住めるようになるかを班のなかまと相談して、みんなの前で発表しました。

ぼくはもっと花輪川に生き物が住めるようになってほしいので、川をきれいするためにできることをしようと思いました。

川の学校で大切なことをたくさん学びました。来年も川の学校に行きたいです。

川の学校に参加して

5班 5年 熊倉悠人

学校で「川の学校」とあった手紙が配られてきました。

ぼくは、最初はどんなもんかなと、はじめてだったのできんちょうしましたが、同じ班に、たかす健人くんという人がいて、友だちになり、すごく楽しかったです。

中でも、川に入って川の生き物をとったり、いろいろなみんなや先生たちと話し合うのがすごく楽しかったです。

ぼくは五年生なのであと一回しか行くチャンスがありません。

だけど「川・自然を守る」という気持ちは変わりません。これからも、オイコスのみなさん、ふくし先生がんばってください。

川の学校で学んだこと

6班 中学1年 川瀬凜花

夏休みにオイコスという NPO のボランティア団体が主催する「川の学校」という企画に参加した。「川の学校」では川の中の生物を観察したり、「川の中の生物を増やすためにはどうすればよいか」という議題に基づいて班ごとに話し合っただけで発表をしたりする。八千代市に源流がある花輪川で 2 日間に及んで開催された。

初日は川や水質の説明があり、各班に分かれてエサを入れた仕掛けをしかけた。2 日目は前日の仕掛けを確認した後、各自網を持って川の中に入って生物採集を行った。

私が川の学校で学んだことは 3 つある。1 つ目は郊外の川にいる生物の豊富さである。花輪川は住宅地から車で 5 分ほど行った水田地帯を流れているが、2 時間程度の生物採集で班全体でザリガニ、スジエビ、ドジョウ、ヨシノボリ、メダカ、ゲンゴロウ等が数多く捕まえられた。コオイムシを捕まえているチームもあった。住宅街から遠くない場所にこれほど多くの生物が生息しているということに驚いた。

2 つ目は生物採取のコツである。班を引率する先生に仕掛けの場所や生物の捕まえ方を教えてもらった。ただ網を振り回すのではなく、草の根元から追いついたり、泥の中をすくったりすることで多くの生物が採取できた。これは初めての貴重な体験だった。

最後に環境保護の大切さである。源流近くで水質を測ったところあまり良い結果にならなかった。川の中に空き缶などのごみも結構目についた。これほど豊富な生物が生息している川なのにこの有様である。これらの生物が生息し続けられるような環境を維持する事が大切であり、私たち一人一人の自然を維持しようという心がけが大事だと思った。

この様な貴重な経験を提供してくれたオイコスに感謝したい。

川の学校に参加して

蛍チーム 佐久間 明

昨年に引き続き、息子と一緒に川の学校に参加した。身近には川遊びができる場所はほかになく、川の生き物に触れられるとあって、息子も楽しみにしていた。知り合いがいないことを心配していたが、すぐに友達もできており、周りに適応する姿も見ることができた。

さて、川の学校は、どうしたら生き物がたくさん住める川になるのかをテーマとしており、最後に、子供たち、大人たちがそれぞれ意見をまとめて発表する。利便性を求めて環境を悪化させてきたことを自覚する大人たちは、できることの範囲で考えてしまいが、子供たちの意見は、素直に生き物を増やすための施策が発表される。こういう経験をつんだ子供たちが、将来、きれいな環境を取り戻すためにさらに科学を発展させる。そんな成長をしていけると確信する。

また、我々大人たちも常に環境に配慮し、環境を悪化させないように働きかけていかなければならないと考えさせられた。

大切なものを頂いた「川の学校」

蛍チーム 二瓶夕子

この度は本当に貴重な体験をどうもありがとうございました。

参加のきっかけは『生き物好きの子供達に是非川遊びを経験させてあげたい』という気持ちからでした。まさか八千代市に川遊びができる川があるなんて…。

行ってみるとそこには日常では目にも留めないと思われる小さな川。そしてオイコスの皆様の説明に、親の自分たちが川について全く何も知らない事に気づかされました。

そして何より感動したのは子供の『生き物いっぱい川にするためには？』の発表。大人班顔負けのひたむきで立派な発表の数々に、久々に感動させられました。大人も本気で考えさせられ、自然と親子で環境問題に向き合える、絶好の機会を頂きました。

あの後、個人的に花輪川を訪れると、我が家の子供達が自発的にゴミ拾いをする姿が。目には見えぬ、大切な物を頂いた気持ちです。本当にどうもありがとうございました。

最後になりましたが、不注意で落としてしまったデジカメを、何度も探し頂き、恐縮千万です。何から何まで本当にどうもありがとうございました。



例年は市の教育委員会のご協力を得て、緑ヶ丘を中心とする12の小学校に限定してチラシを配布していたのですが、今回は花輪川を市民の皆様により多く知っていただくようと全ての市立小学校22校に配布のお願いをしました。その結果、80名を超える児童から応募を頂きました。出来るだけ多くの希望者に参加していただきたく思い、2度の抽選の結果、定員を超えて40名の児童に参加いただきました。この小さな川にこの人数は少々多くなり過ぎ、参加した児童たちには十分な広さが無かったかと反省しています。

また2日目午後のワークショップと話し合いの会場である農業交流センターに父兄やスタッフを含め80名を超える人数の移動には参加者とスタッフの車だけでは足りず、その対応に苦労しました。幸い勝田台スイミングスクール(CAC)のマイクロバスを貸していただきお陰様でスムーズに移動することが出来ました。

今回、川の学校を終えて感じたことは何時もの通り水生動物が多く生息していること、特に今年は絶滅危惧種のメダカが3ヶ所で4匹も見つけられたことです。このことは未だに花輪川が都市型の汚染にまみれること無く、ある程度の水質が保たれているという証が得られたということになります。また、毎回感じるのですが、参加した児童たちの楽しそうな生き生きとした笑顔を見ると苦労が洗われるような気持ちになることです。

(事務局小原)

編集後記

8月9日(日):2日目の朝の事でした。スタッフ一同で今日の準備をしていたときの事です。早めに来られた母子づれの未学修児の女の子が元気良く「おはようございます、きのうはチョウ面白かった——」と気持ちのいい挨拶をもらいました。「今日はもっと面白いよ」と返事をしましたが、この女の子が「川の学校」に参加した子供たちの代弁をしているのかなと、なんだかとても元気をもらった気がします。この小さい川での水遊び、生き物探しが果たして何がいるのか、ワクワク、ドキドキ感が有り、その結果が程よい満足感を得られた事にインパクトがあったのかなと感じられました。

又 お父さん、お母さんもわが子の行動が気になりつつ、川に入っただけの水遊びが結構楽しかったのではと思います。童心に返っての「ワクワク、ドキドキ」感の良いですね。

TANA-H

この報告書は公益財団法人印旛沼環境基金の助成金で発行しました。



広報やちよ表紙に掲載されました



発行責任者：川瀬 純一

事務局&問合せ：小原 翔

☎：047-450-4663

mail：info@yachiyo-oikos.jp